



# かけはし



初棚のために故人の御霊を乗せて来る「精霊馬」

亡き親を乗せてもどりし藁の馬

盆の御棚に幾日やすらふ

賀祥山 禅林寺 第四十世 山中律雄

お盆は日本に元々あった祖霊信仰と仏教が融合した行事で、あの世から祖先が帰ってくると思われています。この期間は学校が夏休みということもあり、お墓参りのため帰省する全国的な移動の時期でもあります。

我が家では高齢化のため、最近はお盆も減ってしまいました。以前は叔父、叔母、いとこなど、大勢の親族が集まってお盆を迎えたものでした。きつとご先祖様達も一緒になって喜んでくれたに違いありません。

自分のルーツを知り、祖先に対する感謝の気持ちと普段なかなか会えない親族と交わる大切な時期であります。

右佛 左我とぞ 合わす手の

声ぞゆかしき 南無の一声

【御詠歌】

両手を合わす時、自分は誰かに支えられ生かされていることを知り、感謝の気持ちを忘れないようにしたいものです。



# この人に聞く

第8回

金子 清子氏 (67歳)  
(にかほ市象潟町)

お盆は、あの世から亡くなった霊が帰って来るとされ、地域によって迎え火など様々な風習があります。霊は馬に乗って帰ってくると思われており、象潟町では新盆にひととき鮮やかな「精霊馬」を飾る風習があります。馬引きがついた手の込んだ馬に肉親の霊に対するいたわりを感じます。いつもお世話になっている金さん一家を取材しました。

この地域に精霊馬が広がったのは、遊佐から婿入りした先々代の竹蔵が葬具屋を開業し、遊佐の風習である精霊馬を売り始めたことがきっかけでした。その後、葬具屋から製材所に転業しましたが、精霊馬作りだけは女達の



ひとつひとつの部品を丁寧に仕上げる清子さん

仕事として代々引き継がれてきました。冬の間に「裁ちもの(裁断)」といってそれぞれの部品を数百枚ずつ作っていきます。工程に沿って作業を進めないと出荷に間に合わなくなってしまいます。義母のチセ(91歳)が裁断し、私が「裏打ち(糊付け)」作業と役割分担していましたが、この冬は、義母が

体調不良なのか中々作業に取り掛かろうとはしません。やむなく私が裁ちものから行うことになりました。義母は「仕事は見えて覚えるもの」と職人気質です。見よう見真似でやるしかありません。初めての作業でしたが出荷のめどがつかまりました。

土台となる真菰の馬は、近所の農家の方にお願いしています。材料の真菰は年々とれる場所が少なくなり、1年間乾燥させてから編むので大変な仕事です。その馬に部品を装飾していきます。先々代の頃から『これは仏さんが乗ってくるものだから、粗末なのは作られね』と丁寧な仕事にこだわってきました。背中に載せる三枚布団は、きちんと裁断されていないときれいに仕上がりません。よく義母に注意されたものです。

作業が一番難しいのは裏打ちです。貼り合わせるたびに新聞紙にはさんで圧着しますので手間がかかります。しかし、ここをしっかりとやらないと紙が反ってしまいます。

「これは仏さんが乗ってくるものだから

粗末なのは作られね」



庄内では精霊馬の作り手が少なくなり、馬の代わりにプラスチック製の自動車を下げるようになったと聞きましたが、やはり仏さんが乗ってくるのは馬だと思えますので、できる限り伝統を残していきたいと思えます。今では営業の効果もあり、庄内の農協とも取引させていただいています。

裁断をやらなくなった義母ですが、やっていただく仕事はあります。布団の綿入れは今でも義母の仕事ですし、馬に部品を着せるのも二人の共同作業です。義母に座ってもらい、

「お義母さんを大黒柱として支えていきますよ」って

私が部品を次々に手渡していきます。一日に何十という馬ができていきます。

平成8年に義父を亡くし、金婚式と一緒に迎えたかと思っていた主人が平成22年に亡くなりました。子供たちは県外で暮らしているため、義母と二人きりの生活です。いつも強



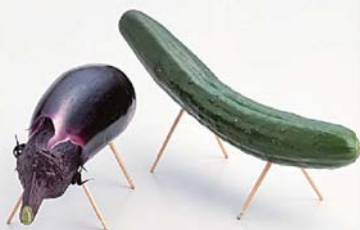
そつと手を握るんです」



清子さん(左)と義母のチセさん(右)

気な義母ですが「お義母さんを大黒柱として支えていきますよ」ってそつと手を握るんです。するとニコッと微笑んでくれます。田んぼの水を見に行くのも、酒田へ買物に行くのも「おれも行く」とどこに行くにも一緒です。義母がいてくれたおかげで主人を亡くした悲しみを乗り越えることができた感謝しています。

「お盆について」



先祖に思いを寄せるのは、春と秋の彼岸、正月、お盆ではないでしょうか。彼岸は、霊魂を彼岸におくるという意味合いに対し、正月・お盆は先祖の霊が各自の家に帰って来るのを迎える行事です。一説によれば、正月に帰って来る先祖の霊は、死後23年以上たった霊であり、お盆に帰って来る霊はそれ以前の霊なのだそうです。いずれも先祖の霊であり、家族の総員で迎えるのが本来の意味です。また、正月の行事は神道的であり、お盆の行事は仏教的といえます。こうした行事は、仏教に基づく教えではなく、日本古来の習俗に由

来したものと考えられます。

お盆は旧暦7月13〜15日ですが、現在は月遅れで行うことが多くなっています。お盆の由来は、釈迦の弟子の目連が、死んだ母が餓鬼道に落ち、逆さに吊るされて苦しんでいるのを救うため、釈迦の教えに従い7月15日の自恣の日（僧侶が夏3か月の修行の終わる日）に百味の飲食を盆に盛り、修行を終えた僧たちに供養したところ、その僧たちの偉大な功德によって母親を救うことができたという説話に基づいています。お盆の別名盂蘭盆はサンスクリット語のウランバナ（倒懸…人の手足を縛ってさかさまにつるすこと）の音訳とされています。お盆に飾る精霊棚にそうめん、シマウリなどを下げて飾るのはこのためだと思われれます。実はこの目連の説話は、仏教本来の教えではなく中国でつくられた偽経という説もあります。日本には7世紀半ば以前に伝わり、農耕儀礼や祖霊信仰と仏教がうまく溶け込み、現在のようになりました。

7月1日（または8月1日）は

釜蓋朔日とか閻魔の口あけと言われ、地獄の釜の蓋があいて先祖があつた世を出発する日とされています。茄子畑や芋畑に行つて地面に耳を近づけて聞くと釜の蓋のあく音や先祖の旅立つ叫び声が聞こえるといわれています。

7日は七日盆といつて墓地までの草を刈り、墓を掃除します。夕刻、迎え火を玄関先で焚いたり、提灯片手に自家の墓まで行つて「じいさま。ばあさま。この光でおでやれ。おでやれ。」と言いながら自宅まで迎える風習もあります。秋田の竿灯は、迎え火が観光化したものでしょう。（迎え火は13日というところもあります）

人が亡くなり、始めて迎えるお盆を新盆（当地域では初棚）といえます。初棚にあたる家では7日に藁や真菰で作った馬を玄関などに吊るします。故人に馬に乗つて来ていただくためです。また、13日の朝、精霊棚を飾ります。場所は座敷か仏間、縁側などです。位牌を置き、供物をお供えします。お盆は施餓鬼供養とされ、直系の先祖だけでなく、三界万霊、諸々

の霊を供養するものとされています。初棚にあたる檀家には菩提寺が読経にまわつてきますので、お布施を用意します。また、当地域ではお盆に親戚の者がお参りする風習がありますので、返礼品を用意しておきます。用意する数は葬式に案内した人の数の1割増位でいいでしょう（注…参列者数ではありません）。初棚に持参する熨斗袋は、黒い熨斗袋に「御仏前」とします。なお、浄土真宗では馬を吊るしたり、精霊棚は飾りません。精霊棚は16日の朝片づけます。お供物は以前は蓮の葉に包んで川に流していましたが、今は環境問題もあり、塩を振つてゴミとして処理しても構いません。夕方には送り火を焚きます。

（1級葬祭ディレクター 佐藤正人）

〈参考文献〉

「日本大百科全書（ニッポニカ）」、「日めくり秋田歳時記」大坂高昭著



## 精霊棚の飾り方（一例）



※地域、宗派によつては、飾らない所もあります。

当社でご葬儀を行われたお客様には、精霊棚の販売・貸出、精霊馬、施餓鬼幡、返礼品等のご案内を差し上げております。上に飾り方の一例としてイラストで示しますが、この通りでなくても構いません。地域によって多少変わるところもあるようです。

施餓鬼幡（イラストの五色幡や白旗のこと）を下げることは供養の一つです。当社でもご用意してありますが、菩提寺からいただくこともありまますのでお尋ねするとよいでしょう。

返礼品にはそうめんを選ぶ方が多いようです。ご不明な点がございましたらお問合せください。

# 「葬祭ディレクター」について

《厚生労働省認定・葬祭ディレクター技能審査制度》

葬祭業に携わる者として、必ずしも資格が必要というわけではありません。しかし、より一層の知識・技能の向上を図ることと併せ、社会的地位の向上を目的として厚生労働省認定の葬祭ディレクター技能審査制度があります。試験は葬祭ディレクター技能審査協会が主催し、認定を行っています。

資格には1級と2級があり、2級は個人葬における相談・会場設営・式典運営等の葬祭サービスの一般的な知識と技能が求められます。1級は全ての葬儀における相談・会場設営・式場運営等の葬祭サービスの詳細な知識と技能が求められます。似ていますが、1級は社葬のプランニングができます。

試験の内容は学科と実技があり、学科試験では、葬儀の基礎知識・公衆衛生・宗教・法律から出題されます。実技試験は幕張・接遇・司会があり制限時間内に終了しなければなりません。

ばなりません。受験者数は1級・2級を合わせて約3千名で、平成26年度の合格率は1級52・0%、2級72・3%でした。実技は個別のブースで行われるため、仕事でも経験したことがないくらいの緊張感を味わいますが、その後の自信につながっているように思います。

日本一と言われる秋田県の高齢化は地域社会や家族のありようにも変化をもたらすことでしょう。こうした中、葬祭業の果たす社会的重要性はますます高まっています。葬祭ディレクターには深い悲嘆にあるご遺族を理解し、専門家としてサービス提供する能力が求められます。そういう意味では、葬祭ディレクター資格はゴールではなく、よりよいサービス向上へのスタートラインに着いたといえるのかもしれません。

当社ではサービス向上のため、今後も葬祭ディレクターの増員を図ってまいります。

## ジェイエイゆり葬祭センター

### 葬祭ディレクター紹介



小松 円佳



佐藤 正人

1級葬祭ディレクター

2級葬祭ディレクター



伊藤 智一



尾留川 一茂



石垣 学



石綿 民紀



伊藤 信和



小野 峻



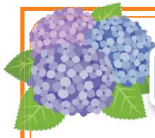
佐々木 明子



小沼 禎幸



佐藤 譲



## 「絵手紙教室」 参加者募集!

あなただけのオリジナル<sup>うちわ</sup>団扇作成に挑戦してみませんか

**日時** 平成28年 6月26日(日)  
午後1時30分～3時30分

**場所** 「虹のホールゆり」  
(由利本荘市川口字八幡前41-1)

**お申し込み** 参加される方のお名前・ご住所・ご連絡先をお電話にてお伝えください。☎ 0184-27-1718  
※画材などはすべて当方でご準備いたします。



お申し込み締め切り / 6月19日(日)まで

ご参加無料



可愛がっていたお人形やぬいぐるみのお別れを丁寧にご供養お引き取りいたします。



## 「人形供養祭」

※当日会場へご持参ください。

**日時**

ご参加無料

平成28年 8月28日(日)  
〈受付〉午前9時～11時  
〈供養祭〉午前11時30分～

**場所**

「虹のホールゆり」  
(由利本荘市川口字八幡前41-1)

供養祭終了後  
お楽しみ抽選会開催!

※可燃性の人形・ぬいぐるみのみとさせていただきます。金属やガラスケースなどの不燃物は、お引き受けできません。

## 「終活セミナー」 参加者募集!

笑顔の写真撮影会や入棺体験あります

**日時** 平成28年 7月24日(日)  
午前10時～13時

**場所** 「虹のホールしらゆき」  
(にかほ市三森字三嶽森41-1)

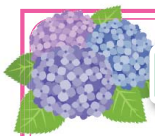
**講座内容** ①『争いにならない相続のために』  
講師/司法書士 工藤 亨氏  
②葬祭マナーについて

**お申し込み** 参加される方のお名前・ご住所・ご連絡先をお電話にてお伝えください。☎ 0184-27-1718  
※昼食をご準備いたします。



お申し込み締め切り / 7月17日(日)まで

ご参加無料



## 「出張セミナー」 開催募集中! 無料

- ① みんなで歌う会
- ② 美味しいお茶の淹れ方
- ③ 葬祭マナー
- ④ エンディングノートの書き方
- ⑤ 相続について

セミナー  
内容

「笑顔の写真撮影会」  
承ります

町内会・集落や老人クラブなどへ出張し、  
セミナーや撮影会を開催いたします。

**お申し込み** 希望するセミナーを選択しセミナー担当(佐藤)までご連絡ください。☎ 0184-27-1718



みどりの会  
会員の皆様へ

代表者の変更や住所の変更、カードを紛失された方はご連絡ください。  
無料で再発行の手続きをいたします。

# お客様の声

平成24年は母の葬儀で大変お世話になりました。サービスの姿勢の良さが素晴らしく印象に残っていました。その時、父がとても感謝して「自分の葬儀もここでしてくれ」が口癖でした。この度、父の葬儀でお世話になりましたが、スタッフの方は当時のことを良く覚えていて下さりました。参列の方々より「とてもよいお葬儀でしたよ」と言われ、心より感謝申し上げます。

〈M様〉

今年一月に参列し、大変印象がよかったのでみどりの会に入会させていただきました。今回、利用するのになり家族一同、大変満足しております。ありがとうございます。

〈K様〉



## JA葬祭 みどりの会 会員募集中

入会金 10,000円で『終身会員』となり、ご家族どなた様(※)でも特典をご利用いただけます。《※同居のご家族様対象》

### 事前相談 承ります

葬儀についての不安を解消いたします。お気軽にご相談ください。

詳しくは、(株)ジェイエィゆり葬祭センター(一番堰)  
または虹のホールゆり(川口)、  
虹のホールしらゆき(にかほ市)  
へどうぞ。

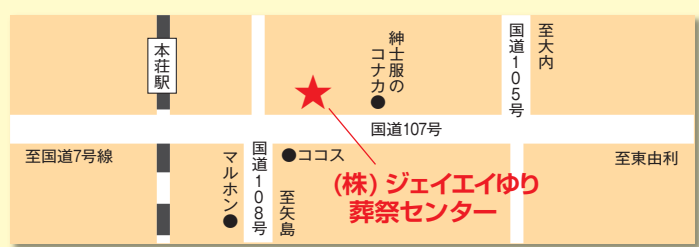
## 編集 後記



清子さんは終始笑顔でした。話の最後に「人生を振り返るとそれぞれの出来事には、すべて意味があったように思います。人生は何ひとつ無駄がありませんね」とおっしゃいました。製材所の火災やアパート経営への転業など、きつと計り知れない苦労があったに違いありません。

しかし、それを乗り越える力となったのは清子さんの笑顔ではなかったでしょうか。「主人は私のことを容姿よりも製材所の事務を任せたくて選んだのですよ」と謙遜されましたが、きつとその笑顔に魅かれたのだと思います。そして、今でもお二人のことを守ってくれているのではないのでしょうか。

「笑う門には福来る」と言いますが、笑顔でいることは心にも体にもいいことで、周りの人にも伝染します。女性は家庭の太陽。いつまでもお元気で長生きしていただきたいと思います。



**(株)ジェイエィゆり葬祭センター**  
本店 / 〒015-0852 由利本荘市一番堰200-1  
**0120-2468-08**  
☎ 27-1718 FAX 27-1715  
メールアドレス: jayurisousai@clock.ocn.ne.jp

JA葬祭 虹のホールゆり 由利本荘市川口字八幡前41-1 ☎ 23-7716 FAX 23-7717  
JA葬祭 虹のホールしらゆき にかほ市三森字三嶽森41-1 ☎ 62-8171 FAX 62-8172

**年中無休・24時間受付**